

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ 京都市の咽頭結膜熱(プール熱)の報告は、まだわずかしかなりませんが、全国では過去5年平均を上回りました。例年夏にかけて報告数が増え流行時期となります。発生動向に注意し、手洗いやうがいなどで予防しましょう。
- ・ アメーバ赤痢の報告が2例(60歳代男性,60歳代女性)(第15週追加報告分1例含む)あり、本年の累積報告数は8例となりました。
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(90歳代男性)あり、症状は尿路感染症、敗血症です。本年の累積報告数は11例となりました。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(70歳代女性)あり、症状はショック、肝不全、腎不全です。本年の累積報告数は4例となりました。
- ・ 梅毒の報告が2例(10歳代女性, 20歳代女性)(第15週追加報告分)ありました。第5週以降毎週報告があり、本年の累積報告数はすでに30例となりました。
コンドームの使用や、不特定多数の性的接触を避けるなど予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>
- ・ 百日咳の報告が1例(10歳未満女性)あり、症状は持続する咳、夜間の咳き込み、スタックート、ウーブです。感染地域は国内、感染経路は家族内感染です。本年の累積報告数は6例となりました。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

京都市のRSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.12(5例)となり、前週と同数となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 13例(肺結核 5例, その他結核 5例, 潜在性結核感染者3例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 107例(肺結核 42例, その他結核 27例, 潜在性結核感染者 38例)うち喀痰塗抹陽性 21例】
- ・ 五類:アメーバ赤痢 2例【1月以降の累積報告数 8例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:梅毒2例【1月以降の累積報告数 30例】
- ・ 五類:百日咳 1例【1月以降の累積報告数 6例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

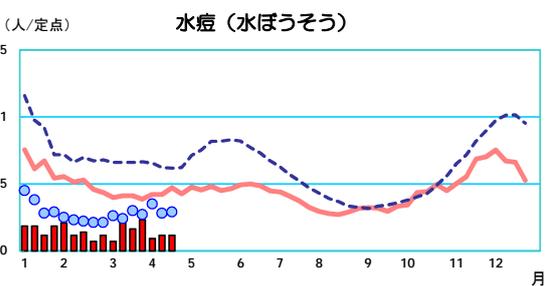
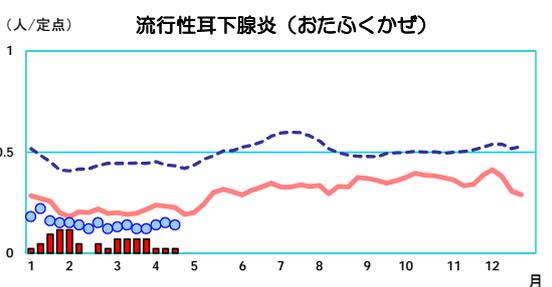
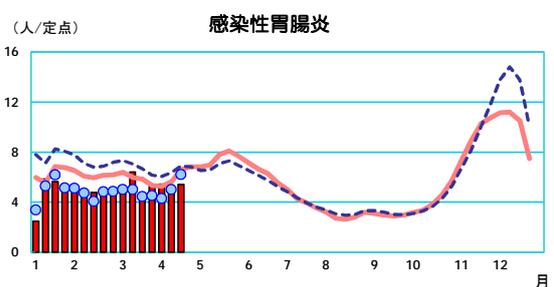
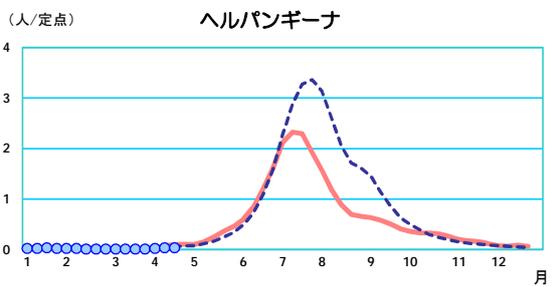
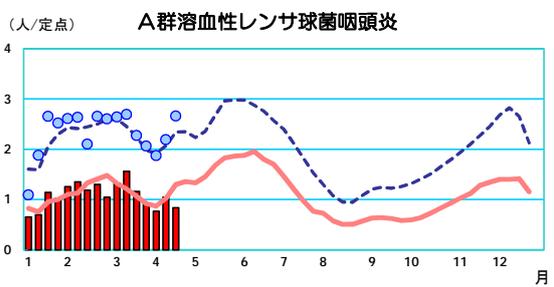
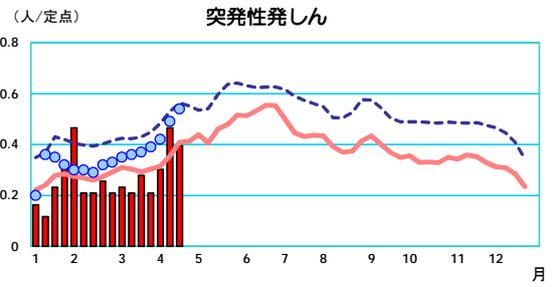
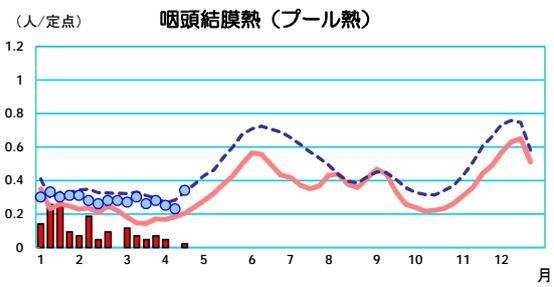
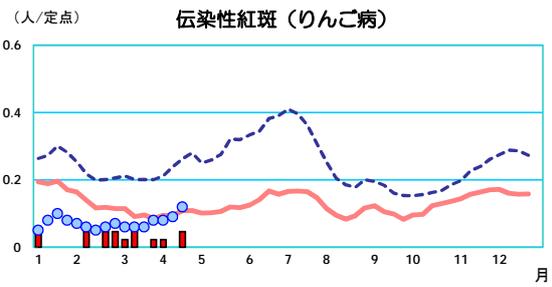
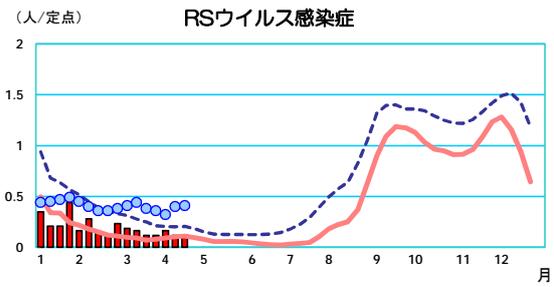
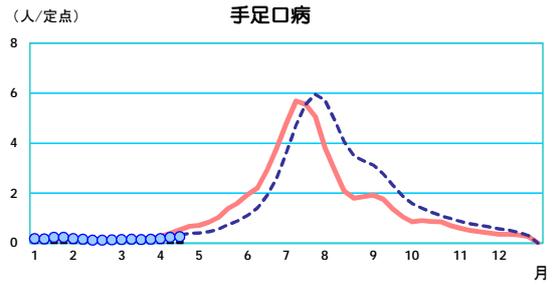
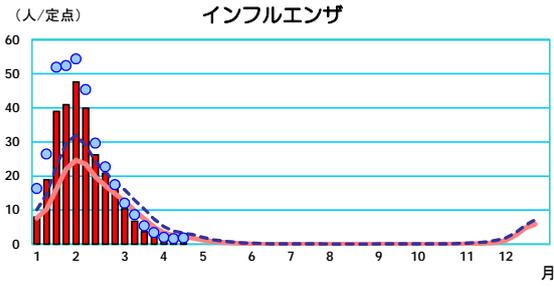
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.52	36
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.42	233
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.84	36
	③ 突発性発しん	0.40	17
	④ RSウイルス感染症	0.12	5
	④ 水痘	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年4月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第16週(4月16日～4月22日)トピックス: <RSウイルス感染症>

京都市のRSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.12(5例)となり、前週と同数となりました。全国の定点当たり報告数は0.41(1,285例)となり、第8週から過去5年平均値を上回って推移しています(図1)。

感染症の発生動向では、過去の平均値及び流行閾値(過去のデータから算出した値で、それ以上報告数が増えたら確率的に非常に多い発生と考えられる値)との比較を観察します。RSウイルス感染症の過去5年平均値を見ると、例年10月から12月にかけて発生のピークを迎え、5月から6月は年間で最も発生の少ない期間となっています(図1及び図2)。しかしながら、全国における本年の動向は、第13週以降4週間連続して流行閾値を上回っており、この時期としては非常に多い発生状況と考えられます(図2)。

全国の報告数の過去10年の推移を見ると、平成23年度に外来の「1歳未満の乳児」等に対するRSウイルス検査に、公的医療保険が適用されて以降、同感染症の報告数が増加した後、年間の累積報告数は概ね10万例前後で推移していましたが、昨年は約14万例と急増しています。(図3)。

京都市での報告数は少ないものの、例年報告数が減少する時期に全国的な報告が流行閾値を上回っていることや、近年の増加傾向を合わせて考えると、今後の動向に注意が必要です。

RSウイルス感染症は、年齢を問わず再感染を起こしやすく生涯にわたって感染を繰り返します。多くの場合軽い症状で済みますが、乳幼児期において、特に早産児や心臓・肺に疾患のある乳幼児、生後数週間～数ヶ月の乳幼児は、細気管支炎や肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。RSウイルス感染症にはワクチンや特効薬がなく、予防が重要です。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品を介した接触感染です。特に、家庭内では両方の感染経路が重複するため、感染しやすい環境といえます。咳などの症状のある大人はマスクを着用し、飛沫による感染を防ぎましょう。また、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどをこまめに消毒するほか、流水及び石けんによる手洗いで、接触による感染を予防しましょう。

図1 京都市及び全国の定点当たり報告数の推移

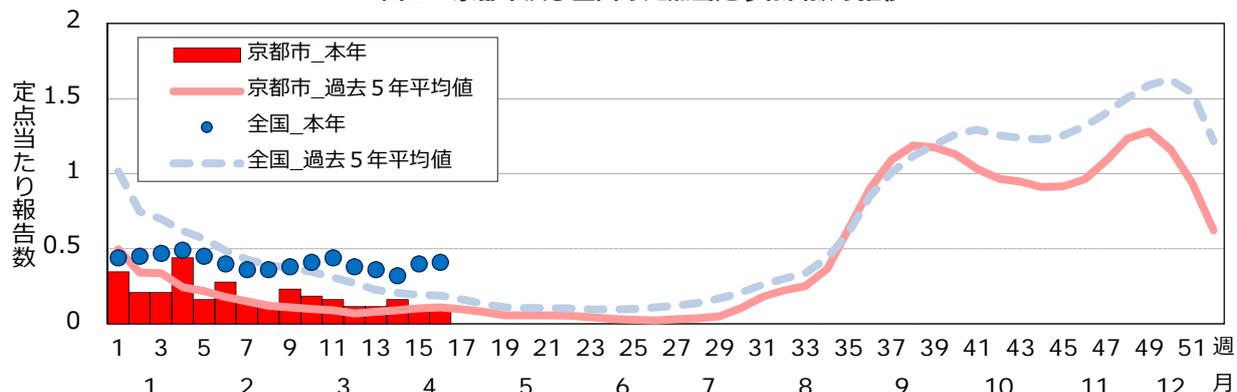


図2 全国の定点当たり報告数の推移と流行閾値との比較

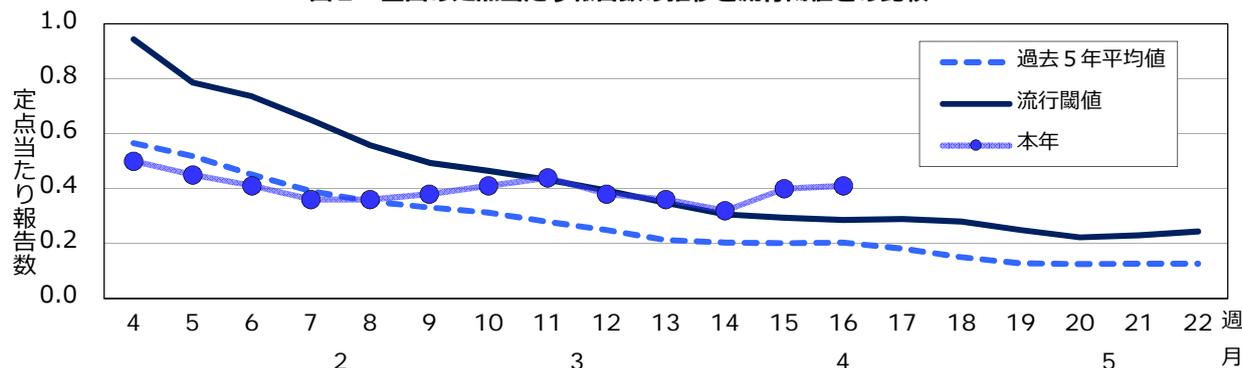
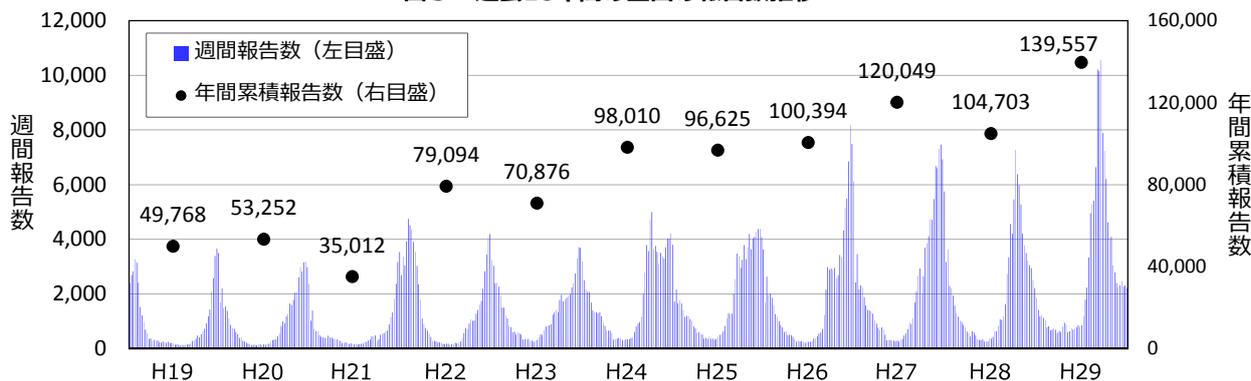


図3 過去10年間の全国の報告数推移



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第16週

疾病,行政区別報告数

平成30年4月16日～平成30年4月22日

データ入手日:平成30年4月26日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	2	2	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	3	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	5	-	-	6	66	-	-	-	2	-	-	-	-					
中京	2	3	-	5	11	-	1	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-							
山科	2	-	-	5	2	-	-	-	3	-	1	-	-					
下京	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	3	-	1	2	18	2	1	1	2	-	-							
右京	4	-	-	5	13	-	1	1	3	-	-	-	1					
伏見	12	-	-	5	60	3	-	-	4	-	-	-	1					
西京	1	-	-	5	40	-	-	-	1	-	-	-	-					
京都市計	36	5	1	36	233	5	3	2	17	2	1	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	0.29	0.50	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	0.60	-	-	1.00	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	0.71	-	-	1.50	16.50	-	-	-	0.50	-	-	-	-					
中京	0.40	1.00	-	1.67	3.67	-	0.33	-	0.67	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	0.33	-	-	-	8.50	-	-	-	-	-	-							
山科	0.29	-	-	1.00	0.40	-	-	-	0.60	-	0.20	-	-					
下京	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	0.60	-	0.33	0.67	6.00	0.67	0.33	0.33	0.67	-	-							
右京	0.50	-	-	1.00	2.60	-	0.20	0.20	0.60	-	-	-	1.00					
伏見	1.09	-	-	0.71	8.57	0.43	-	-	0.57	-	-	-	0.50					
西京	0.13	-	-	1.00	8.00	-	-	-	0.20	-	-	-	-					
京都市計	0.52	0.12	0.02	0.84	5.42	0.12	0.07	0.05	0.40	0.05	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第16週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年4月16日～平成30年4月22日

データ入手日:平成30年4月26日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	36	-	-	1	2	3	-	2	2	1	-	1	3	7	5	2	3	2	1	1	-	
RSウイルス感染症	年齢3	5	-	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		36	-	-	2	3	3	5	4	6	4	1	3	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		233	2	30	44	22	23	14	11	10	9	5	4	22	12	25	-	-	-	-	-	-	-
水痘		5	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		17	-	6	9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.52	-	-	0.01	0.03	0.04	-	0.03	0.03	0.01	-	0.01	0.04	0.10	0.07	0.03	0.04	0.03	0.01	0.01	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.12	-	0.07	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.84	-	-	0.05	0.07	0.07	0.12	0.09	0.14	0.09	0.02	0.07	0.05	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		5.42	0.05	0.70	1.02	0.51	0.53	0.33	0.26	0.23	0.21	0.12	0.09	0.51	0.28	0.58	-	-	-	-	-	-
水痘		0.12	-	0.05	-	-	-	-	0.02	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.07	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.40	-	0.14	0.21	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.05	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.20	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第16週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年4月26日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	469	253	160	66	51	36
RSウイルス感染症	7	5	5	7	5	5
咽頭結膜熱	3	2	3	2	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67	50	39	33	45	36
感染性胃腸炎	275	195	225	234	217	233
水痘	10	7	10	4	5	5
手足口病	3	4	1	3	1	3
伝染性紅斑	3	-	1	1	-	2
突発性発しん	9	12	9	13	20	17
ヘルパンギーナ	-	-	2	1	1	2
流行性耳下腺炎	3	3	3	1	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	3	3	2	4	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	850	534	461	367	350	343

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	6.80	3.67	2.32	0.96	0.74	0.52
RSウイルス感染症	0.16	0.12	0.12	0.16	0.12	0.12
咽頭結膜熱	0.07	0.05	0.07	0.05	-	0.02
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.56	1.16	0.91	0.77	1.05	0.84
感染性胃腸炎	6.40	4.53	5.23	5.44	5.05	5.42
水痘	0.23	0.16	0.23	0.09	0.12	0.12
手足口病	0.07	0.09	0.02	0.07	0.02	0.07
伝染性紅斑	0.07	-	0.02	0.02	-	0.05
突発性発しん	0.21	0.28	0.21	0.30	0.47	0.40
ヘルパンギーナ	-	-	0.05	0.02	0.02	0.05
流行性耳下腺炎	0.07	0.07	0.07	0.02	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.30	0.30	0.20	0.40	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	15.73	10.43	9.55	8.11	8.00	7.81

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。